

# 営農だより 野菜版12号

J A 御 殿 場 営 農 課  
2021年(令和3年)8月20日発行

☆適期管理・適期防除・適期収穫で品質の良い野菜を栽培しよう!!

## キャベツ・ブロッコリーの病害虫防除

秋雨期になると病害が多発するため、予防的防除・ほ場の排水対策を万全にしましょう。また、病害虫の同時防除を心がけ、系統の異なる薬剤を交互に散布(ローテーション防除)しましょう。初期発生時の防除を怠ると被害が著しくなる為、注意が必要です。

### 【病害防除例】

薬剤名	系統 FRAC	対象病害虫	倍率	1a当り 使用液量	使用回数	収穫前
ダコニール1000	M5	べと病・根朽病等	1,000倍	10~30ℓ	2回以内	注
Zボルドー	M1	黒腐病・べと病等	500倍	10~30ℓ	—	—
アフェットフロアブル	7	菌核病・根朽病等	2,000倍	10~30ℓ	3回以内	前日まで

注：キャベツは収穫14日前まで、ブロッコリーは収穫21日前(出花蕾前)までです。

**べと病**：外葉の葉脈間に、淡褐色、不整形でややへこんだ病斑を形成する。裏面に汚白色、霜状のかびを生じる。ハクサイやキュウリのべと病斑ほど明瞭ではない為、注意が必要です。

**黒腐病**：葉縁に葉脈から外側へ広がる黄褐色のV字形の病斑を形成し、生育の全期間にわたり発生する。子葉では、先端部のへこみの部分が黒変し、急速に縮れて枯死する。成葉では、初め下葉の葉縁の水孔付近から黄化し、次いで葉脈から外側へ広がるV字形の黄褐色の病斑を形成して拡大する。

**根朽病**：地際部から地下部の茎の皮層部が黒褐変してくびれる。生育全期間にわたって発生するが、幼苗期から生育前期に発生すると被害が大きい。葉・茎・葉柄では、初め紫褐色の小斑点を生じ、やがて拡大して円形、灰緑色の大型病斑を形成する。

**菌核病**：キャベツの場合、結球期に外葉の基部や地面に接する部分で、淡褐色水浸状の病斑を形成する。結球部が表面から汚白色を呈し、内部に白色面綿毛状菌糸を生じて腐敗する。後に多数の黒色ネズミふん状の菌核を形成する。

**【害虫防除例】 ●は毒劇物の為、購入の際は印鑑(認め印)・身分証明書を持参して下さい。**

薬剤名	系統 IRAC	対象病害虫	倍率	1a当り 使用液量	使用回数	収穫前	毒劇物
プレバソフロアブル5	28	コナガ・アオムシ オオタバコガ・ヨトウムシ等	2,000倍	10~30ℓ	3回以内	前日まで	
フェニックス顆粒水和剤	28	ハイマダラノメイガ・アオムシ ヨトウムシ・コナガ等	2,000~ 4,000倍	10~30ℓ	注1	前日まで	
プレオフロアブル	UN	コナガ・アオムシ オオタバコガ・ヨトウムシ等	1,000倍	10~30ℓ	2回以内	7日前まで	
モスピラン顆粒水溶剤	4A	アブラムシ類・アザミウマ類等	2,000倍	10~30ℓ	注2	注3	●

注1：キャベツは使用回数3回以内、ブロッコリーは使用回数は2回以内です。

注2：キャベツは使用回数5回以内、ブロッコリーは使用回数は3回以内です。

注3：キャベツは収穫7日前まで、ブロッコリーは収穫14日前までです。

**コナガ**：黄白色～緑色のイモムシが葉や新芽を食べる。幼虫が葉表の薄皮を残して食べるため、初めはその部分が白く見え、後に破れて1～4ミリの小さな穴があく。幼苗期に多発すると、芯葉に潜り込んで葉の生長を止めてしまうので、被害が大きい。

**アオムシ**：緑色のイモムシが葉を食べる。葉に大きな穴があき、多発すると葉脈を残して葉が食い尽くされる。

**ヨトウムシ**：イモムシが集団で葉を食べ、ボロボロにする。卵が数十～数百個の塊で産まれるため、若齢幼虫は葉裏で集団生活し、葉表の薄皮を残して食害する。この時は畑の中の数枚の葉が白く見える。

**ハイマダラノメイガ**：淡褐色のイモムシが芯葉や茎に潜り込む。幼苗の葉と葉をつづり合わせて内側を食べたり、大きな葉の葉柄や葉脈に潜り込む。

**アブラムシ類**：楕円形の虫が集団で葉の汁を吸う。葉裏に1～2ミリくらいの虫がたくさん群がって葉の汁を吸い、葉が黄色くなって枯れることもある。汁を吸う時にウイルス病を媒介する。ウイルス病にかかると葉の色がまだらに白く抜けたり、葉が萎縮する。

# タマネギの栽培

## 1. 特徴

タマネギ栽培は、良い苗作りが基本です。早まきして大苗で越冬するととう立ちしてしまうため、品種ごとの種まき時期を守り、適正サイズの苗を育てることが大切です。

※苗の間（生育初期）は $-8^{\circ}\text{C}$ 程度の寒さにも耐えますが、暑さに弱く、 $25^{\circ}\text{C}$ 以上になると生育は抑制されるので注意が必要です。

- ・ 播種時期：9月中旬 ①発芽適温： $15\sim 20^{\circ}\text{C}$
- ・ 定植時期：11月中旬 ②生育適温： $15\sim 20^{\circ}\text{C}$  ③肥大適温： $15\sim 25^{\circ}\text{C}$

## 2. 播種・育苗

### 苗床育苗

- ①種まきの数日前に幅80cm程度のベッドを作り、園芸化成s550と苦土石灰を1㎡当たり50g施用し、管理機等で耕運しましょう。
  - ②苗床の表面の土をならしておき、まき溝を付け溝の中に約1～1.5cm間隔に種をまき、種が隠れる程度（5mm程度）に覆土を行いましょ。
  - ③種まき後1週間程度で発芽しますが、発芽当初は生育が遅く不揃いになりやすいことから、苗床が乾いたら水やりを行いましょ。
- ※苗床が湿り過ぎると苗立枯病が発生しますので多灌水には注意が必要です。
- ④本葉2枚の頃に混んでいる所を間引いて、株間を約2cm間隔に揃えましょ。
  - ⑤発芽後20日頃に、園芸化成s550を1㎡当たり30g施用しましょ。

### ～栽培のポイント～

- ・ 幼苗時は乾燥に弱いため灌水をこまめに行いましょ。
- ・ 覆土が深いと発芽が揃わず、欠株にも繋がります。また、浅すぎても転び苗や乾燥害を受けやすくなります。

### セルトレイ育苗

- ①200穴セルトレイを用意し、ネギ用培土を詰め8mm程度に均一な深さの種穴を開け、1穴1粒ずつ播種を行いましょ。
- ②均一に覆土をかけ板などで平らにならし、トレイの底から均一に水が出るくらい灌水をしましょ。
- ③発芽直後までは乾燥させないように、適宜灌水を心がけましょ。本葉2葉期以降は萎れに注意し、尚且つ伸びすぎないように灌水間隔や回数に注意しましょ。
- ④タマネギは長期間の育苗となる為、肥料切れには注意が必要です。ネギ用培土の利用をお勧めしましょ。

### ～栽培のポイント～

- ・ タマネギは育苗の期間が長いため、セルトレイで育苗する場合はネギ用培土など肥効期間の長い培土を使用しましょ。
- ・ セルトレイは、1穴の培土量が少なく乾燥しやすいため、苗床育苗に比べて灌水や追肥などで細かい管理が必要になります。

### 3. 定植

#### 苗の大きさ

5～6mm（鉛筆程度）の太さの苗を定植しましょう。太く育ち過ぎた苗を定植すると、春先に分球やとう立ちの原因となります。

#### ほ場準備（1a当り）

定植1ヶ月前までに、堆肥100kg・苦土石灰(粒)10kgを施用してできるだけ深く耕運しておきましょう。

#### 定植（1a当り）

①ジシアン有機s806を16kgとダイアジノン粒剤5（作条土壌混和）を施用し、管理機等で耕運する。

②マルチの幅に合わせた畝たてを行う。

③苗を2～3cmの深さで定植する（葉の分岐点が埋まらない深さ）。

※霜等で苗が浮いてしまった場合は押し直しを行い、足や手で土を鎮圧し浮き上がりの再発を防止しましょう。

#### 定植後の管理（1a当り）

追肥…2月上旬と3月上旬（止め肥）の2回、NK化成2号を3kg施用しましょう。

※止め肥の遅れや過剰施肥は、病害虫の発生を助長させたり、貯蔵中の腐敗の原因となるので注意が必要です。

防除…タマネギは、べと病や疫病の防除が重要になります。発生前の予防的防除を心がけましょう。

#### 【病害防除例】

薬剤名	系統 FRAC	対象病害虫	倍率	1a当り 使用液量	使用回数	収穫前
プロポーズ顆粒水和剤	40・M5	べと病・白色疫病等	1,000倍	10～30ℓ	3回以内	7日前まで
Zボルドー	M1	軟腐病・べと病等	500倍	10～30ℓ	—	—

マネギは水を弾いてしまう為、必ずニーズ等の展着剤と共に農薬を散布しましょう。

・病害発生株は、発見次第抜き取りほ場の外へ除去して下さい。

**べと病**：全身感染すると草丈低く、葉の光沢がなくなり淡黄緑色になる。生育も遅れ、葉は横にやや湾曲する。二次感染では葉・花茎にへこんだ楕円形の大型病斑を形成し、白色ないし暗紫色のかびを生じる。

**白色疫病**：主に葉に発生する。葉身中央から先端部に、暗緑色水浸状大型病斑を形成し、病斑部を内側にして葉身が曲がり、乾枯すると白色ないし灰白色になり、健全部との境は明瞭になる。

